

やまもり通信 vol.77

まもなく梅雨入り。
色とりどりの傘が街中をカラフルに彩ってくれます。



【加子母の風景】朴の葉っぱが大きくなって、いよいよ朴葉ずしの季節です。

こちら 彩都やまもりです

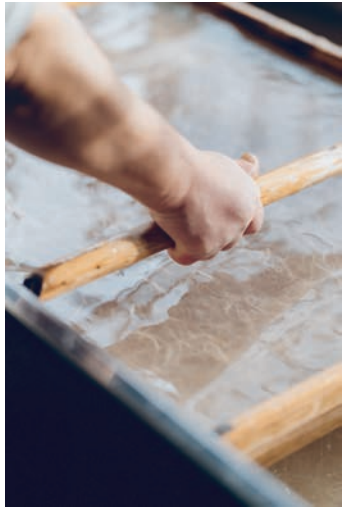
【住所】箕面市彩都栗生南1-17-26

彩都やまもり6・7月彩輝館ギャラリー展示情報

「岐阜の伝統工芸 和紙の魅力に触れる」を紹介します。

【期間】令和4年6月1日(水)～8月1日(月)

豊かな自然と清流で作られる岐阜の和紙には、1300年以上の歴史がありユネスコ世界無形文化遺産に登録されている「美濃和紙」をはじめ、飛騨の山深い豪雪地で800年もの歴史を誇る「山中和紙」があります。そうした岐阜の和紙で作られた和紙製品・工芸品に触れてみませんか？

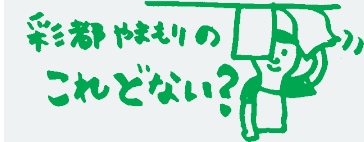


豆知識 美濃和紙と山中和紙

美濃和紙は越前和紙(福井県)、土佐和紙(高知県)と並ぶ「日本三大和紙」の一つで、岐阜県美濃市で作られています。美濃和紙は本美濃紙、美濃手すき和紙、美濃機械すき和紙と大きく3種類に分けられ、薄くムラがなくやわらかな風合いが特徴です。また耐久性にも優れているので、昔から障子や屏風、掛け軸、さらには照明器具やインテリア、小物やアクセサリまで様々なものに使われてきました。海外での評価も高く、先の東京オリンピックでは表彰状に使われました。

一方、飛騨紙の一種である山中和紙は、飛騨市川合町で鎌倉時代から続く伝統の手すき和紙で、飛騨紙の産地の中で最も山奥で作られていたことからその名がつけられたとされています。

現在もすべて手作業で作ることにこだわり、冬に雪上で楮(こうぞ)をさらし自然漂白する工法は豪雪地帯ゆえの独特のもの。素材そのものの“生成り”色は日に当たるとどんどん白くなっていくのが特徴的です。繊維がしっかりとて丈夫で、障子紙や神社の御幣にも使われているほか、最近ではかばんや帽子、座布団なども作られています。



ひのきコースター



ひのきの輪切りでできたひのきのコースターを入荷しました。厚さ1センチ、直径9センチ程度の大きさで、自然の木の形や質感をそのまま生かし、グラスはもちろん、マグカップにもとてもよく似合います。これから暑くなる季節、冷たい飲み物を入れて、おうちでカフェ気分を味わうのもいいですね。彩都やまもりのギャラリーにて1枚より販売中。自然素材のため1枚1枚形は微妙に異なりますので、ぜひお好きな1枚を見つけにいらしてください。

【お問合せ】彩都やまもり(TEL:072-739-6046)

※最新情報は随時、
彩都やまもり HP
(<https://yamamori.site>) や
facebook でご確認ください。



やまもりHP



やまもりfacebook

彩都やまもり あじろと日記

モデルハウス内に土岐市的美濃焼をレイアウト!

彩都やまもり内に建っている2棟の岐阜県産材住宅モデルハウス。そのうちの1棟「加子母子屋(かしもこや)」のダイニングキッチンに、現在美濃焼の食器でレイアウトされています。すべて土岐市のふるさと納税返礼品で、今回土岐市のご厚意により、期間限定でお借りすることができました。美濃焼といえばどちらかというと「和」のイメージが強いですが、お皿やティーポットなど洋風な感じの食器で統一されていて、淡く明るめの彩りでお家の雰囲気にもぴったりです! 興味ある方はぜひ一度見にいらしてくださいね。



同じ樹も撮る

1月から、ムスメといつも一緒に

いく公園の樹を写真に撮って

います。「同じアングルで、ムスメと

行った時だけ撮る」を決まりにした

写真が50枚超えました。

雪の日、地面が凍っている日、

少しずつあたたかくなる日射し、

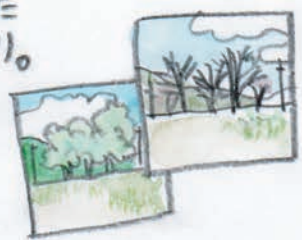
桜が咲いたり、地面に草がはえたり。

なかなか芽吹かなかった樹が

一気に緑になっていく様は、力強く

感動しました。四季を記録したいと

思っています。



本間希代子 絵描きイラストレーター 名古屋生まれ。加子母に移住して25年目。古楽器奏者の夫と娘と日々バタバタと加子母ライフを楽しんでいます。アトリエ玉手箱 <http://tebakko.jp>

ふるさと 岐阜からまぶさかへ



中村 宙樹さん

他府県から移住し岐阜に暮らす「人」に焦点をあわせた企画、今回は関西出身で下呂市に移住された中村宙樹さんです。(やまもり通信編集室・以下「や」)

や) 中村さんは関西出身だとお聞きしました。

中村) はい。兵庫県の加古川市生まれなんです。25歳の時に思い立って自転車で行って自給自足生活を始めています。帰国してすぐに知り合いのついでイタリア料理店で働くことになったのですが、自分でやりたくなって川崎市で無国籍料理店を開きました。

や) それがどうして岐阜県に移住を?

中村) 都会暮らしより山の中の古民家に住みたいというあこがれは昔からあったのですが、ある時知り合いに「都会でお店や住まいの高い家賃を払うのと、田舎で収入は半分になるかも知れないけど家賃などが安くなれば利益は一緒だよ」と聞いて田舎への移住を本気で考え始めました。(笑)

や) それからは?

中村) あちこち移住先を求めて旅したり調べたりしている時に、たまたまネットで下呂市が料理人の地域おこし協力隊を探しているというのを見つけてすぐに応募して採用されました。

や) それで岐阜県に行ったわけですが移住を決めたのは何だったのでしょうか?

中村) 現地に着いていろいろ見て廻る中で飛騨川に一目惚れしたっていうのが本音です。(笑) 飛騨川から見た山々がネパールのヒマラヤ山脈にも重なってここに住みたいと思って古民家を紹介してもらい改装してスパイスカリーを中心としたレストランを開店しました。(次号に続く)



(上) 世界放浪の旅イランにて
(左) 古民家改修中



※まめⅡ東濃地方の方言「元気」という意味

加子母の人 山守日記 11 第69回 花火

この2年、コロナ禍で加子母の夏祭り・花火は中止でした。加子母の花火は、山と山が近いので音が反響してとても迫力があります。村の商工会青年部による手作りの祭り、村の人達も少しづつ寄付をして花火を打ち上げています。今年の夏は見られると良いなあと思っているのですが、御山守内木彦七の『御山方御用并所持日記』を見ると、どうやら江戸時代にも花火はあったようです。どんな花火だったのかなあ。



●花火は夏の風物詩ではない?!

花火といえば夏の風物詩と思いますが、が、もともとは祈願・鎮魂・先祖供養など、神仏へ奉納する為に打ち上げられるものだったんです。彦七の日記によると、加子母村で花火が打ち上げられたのは、2・3月が7件、7・8月が2件。夏は農繁期だから忙しかったのでしょうね。

●地区で花火を上げた話

明和8年(1771)2月、丹六と文吉が彦七に相談に来ました。産宮様と薬師様へ花



火を奉納する計画し、火薬の原料となる硝石を用意しようとしたが、二人だけではとても費用が足りないのでは上桑原組(地区に力添えを願っていた)と考へ、彦七によく頼みに来たのです。その時彦七は合力金(寄付金)100文を出そうと賛同しています。

七日後の日記には、彦七の息子善右衛門が「下林」の家へ「花火手伝ひ二行」とあります。組(地区)全体で打ち上げるようになった花火ですから、彦七家からも手伝いに出たことがわかります。

3月15日、産宮で最初の花火が奉納され彦七は見物に行った奉公人から立石柿3串をお土産にもらいました。3月18日にも花火が行われ、大勢が見物に行きました。この時は彦七の妻「かか」から立石柿2串をもらいました。花火の定番おやつだったんでしょうか。ちなみに「かか」は知り合いからお酒を振る舞われてほろ酔い状態で帰ってきたと、日記には記されています。楽しい時間を過ごしたんでしょうね。

地区で力を合わせて打ち上げた花火。現在の加子母の夏祭りに近いものを感じます。誰かがやるうと言った事をみんなで賛同して実行し、楽しむ。加子母人スピリットここにありですね。



参考文献:『山村の人・家・つきあい』江戸時代の「かしも生活①」 太田尚宏著 徳川林政史研究所発行

関西発会活動けいじ板

●6/9(木)合同記念祝賀会を開催します!

すでにご案内しておりますが、2020年に10周年を迎えた関西岐阜県人連合会と120周年を迎えた大阪岐阜県人会、そして今年120周年を迎える京都岐阜県人会の合同記念祝賀会を左記のとおり開催いたします。なお、大阪県人会と連合会の定時総会も同日開催いたします。

【日時場所】

- 6月9日(木) ホテルモントレ大阪
16時〜 定時総会
6F会議室「メヌエット」
- 17時半〜 記念撮影
7F大宴会場「ハルティ・アメリカ」
18時〜 祝賀会 同右

【会費】12000円

●10月開催 岐阜県人会インターナショナル(GKI)第1回世界大会について
昨年当連合会も加盟いたしました岐阜県人会インターナショナル(GKI)の第1回世界大会が左記日程で開催されます。世界26か国の岐阜県人会員との交流イベントです。ご興味ある方、参加ご希望の方は連合会事務局吉田(072-17391604)までご連絡下さい。

- ①記念式典
10月29日(土)14時〜
岐阜市サランカホール
- ②夕食会
10月29日(土)18時〜
岐阜グランドホテル
(会費自己負担:5千円程度)

③分科会

- 10月30日(日)10時〜
OKBふれあい会館
- ④2泊3日県内体験観光ツアー
10月31日(月)〜11月2日(水)
(ツアー参加費:5万円程度)

岐阜県人会インターナショナル(GKI)とは?

ブラジル県人会をはじめ世界17カ国26の岐阜県人会が成る団体。互いの情報を共有し、交流を深めることで世界の岐阜人と岐阜県民をつなぐことを目的としています。2〜3カ月おきに有識者を招いたオンライン定例会やオンラインセミナーなども行っており、海外進出を目指す個人や若者、企業と現地との懸け橋となることをめざしています。

加盟団体は、カンボジア、上海、シンガポール、ジャカルタ、ソウル、タイ、台湾、大連、ハノイ、ホーチミン、香港、マニラ、カナダ、デトロイト、南カルフォルニア、ニューヨーク、ワシントンDC、ハワイ、アラルゼンチン、ブラジル、ベルギー、オーストラリア、フランス、東京、関西、岐阜。定例会等参加に興味ある方は、事務局吉田までお問い合わせ下さい。

●大阪県人会事務局よりお願い

すでに封書でご案内しております今年度の年会費納入がまだの方は、お早めにお振込みくださいますようお願いいたします。